

# 満鉄の設立



- \* 一般郷土史料1689-1 「南満州鐵道株式會社株券」
- \* 左右下隅に社章が見えますが、これは「満鉄」のアルファベットのMの字とレールの形からデザインされたものです。また中央に「南満州鐵道株式會社」の透かしの文字が入っています。

## 解説

日露戦争後、ポーツマス条約によりロシアから旅順・大連の租借権、長春以南の鐵道の利権を譲り受けた日本は、1906（明治39）年、半官半民の南満州鐵道株式會社（満鉄）を設立し、鐵道を中心に炭鉱の開發、製鐵所の建設、沿線での都市の建設などを行いました。満州での經濟的な利益を独占した日本は、やがて、満州への進出の機会をうかがっていたアメリカと対立するようになっていきます。

左の写真は券面額500円の満鉄10株券です。満鉄設立当初、經營の見通しは不透明で、資金調達についても不安視されていました。しかし、国策会社として設立された満鉄に寄せる人々の期待は高く、第1回株式募集では99,000株に対して1億余株の応募が殺到し、倍率は1,000倍を超えました。

なお、表面を見ると、100円ずつ5回に分けて入金されていることがわかります。これは、当時の株式分割払込制度によるもので、多くの出資者を募るのに有効でした。



\* 時岡家文書（山口市）107-10「大連名勝十六景絵はがき 満鉄本社」